

地域と大学

第42号

Newsletter No.42, Education Center for Regional Development

サステイナブルを見つけるための視座

地域創造教育センター准教授 山本 隆太

私は昨年10月、地域創造教育センターに着任しました。専門は地理学、地理教育です。学生の頃は、野外で地形を調査する地形学を専攻し、ドイツの北部（準平原）をフィールドとしていました。ドイツに調査留学した際、現地の学校現場を見学する機会に恵まれたのですが、日本の教育との違いに衝撃を受けました。一言で言えば、ドイツの生徒は日本とは違い、非常に自立していたのです。この体験をきっかけとして教育の研究へ転向しました。テーマは、地理学を活かそうと思い、「人間と自然の関係の学習」にしました。ちなみにドイツは環境教育大国として有名ですが、現在は、SDGs（持続可能な開発目標）の教育（ESD）で国際的な牽引役を担っています。

ドイツのSDGsの教育は、人間と自然の関係という視点から物事を捉える点が特徴です。人間が自然と調和的に暮らしてきた様子（風土ともいわれるもの）を理解するとともに、石炭・石油、熱帯雨林などの自然資源を人間がいかに収奪してきたのかという環境問題、開発問題をその不調和として学びます。そのため、地球の回復力を超えた経済開発が行われた結果、その反動が気候変動として人間側に返ってきたという説明は、人間と自然のバランス（=天秤）を学習するドイツにおいては、より納得感をもって理解されそれゆえ危機として捉えられているはずです。

静岡でも、地域や課題が「人間と自然の関係」というまなざしで捉えられてきました。東海道五十三次に描かれた風景は市民に親しまれています。生活文化において「伊豆餓死、駿河乞食、遠州泥棒」、「やらまいか、やめまいか」といった風土とメンタリティーを表現する言葉があふれています。その気候と交通事情か

ら静岡県を「温暖な回廊」と呼んだ地理学者もいました。さらに、エコパーク、ジオパーク、世界遺産など、人間と自然の関係が世界から高く評価されたエリアがいくつも広がっています。こうした調和的な側面だけではありません。大井川の水の問題や、富士の大気汚染、狩野川の洪水などのように、人間と自然のバランスが崩れた様子も同時に目の当たりにしてきたエリアです。そういう意味では、昔も今も、人間と自然の関係に対するまなざしは存在するはずで

静岡に引越して2年ですが、今後は、静岡に散らばるさまざまな事柄を深く学びながら、その事柄同士のつながりを常に見つけようと思つて心掛けることで、静岡という地域を総合的・俯瞰的に理解したいと思っています。自然のことを学んだときは社会とのつながりを意識し、社会のことを学んだら自然のことを意識するという視点の変化を忘れないようにする。ドイツの事例からは、こうした視点の変化を意識しながら地域を見つめなおすことこそが、持続可能な開発の本質を理解することにつながるのだと教わったので、私自身、実践して確かめたいと思います。



ドイツでのフィールドワーク（ベルリン自由大学留学中）

2020年度静岡大学公開講座

静岡大学では、地域社会に対し広く学習の機会を提供することを目的として、1978（昭和53）年より公開講座を実施しています。

今年度の公開講座は、下の表のとおり、4月から3月にかけて多岐にわたるテーマで実施を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止や延期、人数制限や形式を変えての実施となった講

座もありました。

今年度の実施結果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたいと思っております。

次年度の公開講座の情報は地域人材育成・プロジェクト部門HPでご確認いただけます。

<https://www.lc.shizuoka.ac.jp/>

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	延べ人数	受講料	主催
日本人の知らない世界 [全15回] ※新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため延期して実施 (9/5・12・19・26、10/3・ 10・17・24・31、11/7・21・ 28、12/5・12 [全15回])	人文社会科学部准教授・張 盛開 人文社会科学部教授・埋田重夫 人文社会科学部教授・朴 根好 人文社会科学部准教授・大原志麻 人文社会科学部教授・小二田誠二 人文社会科学部教授・南 富嶺 人文社会科学部教授・鈴木実佳 人文社会科学部教授・安永 愛 人文社会科学部教授・大藪正彦 国際連携推進機構特任准教授・ 比留間洋一 人文社会科学部教授・堀 博文 人文社会科学部教授・田村充正 人文社会科学部教授・Steve Redford 学長補佐室特任教授・ダリウス・グレ ネジ	4/18、5/9・16・30、6/6・ 20・27、7/4・11、9/19、 10/17・24、11/7・21 (土)14:00～16:00 4/18は13:00～16:00 (13:00～13:50・14:00 ～16:00)、 10/17は10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民	60	467	無料	人
私のミカン～ミカンの通年管理 教室～ [全5回] ※新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため中止	技術部技術専門員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀	5/19、7/7、9/8、11/10、 3/2(火)13:30～15:30	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	一般市民	10	—	10,000	技
安心登山・アウトドア活動のた めの読図とナビゲーションスキ ル（初級編） ※新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため9/27に延期して 実施	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本チャンピオン・ 小泉成行	5/23(土)9:30～16:30	静岡キャンパス	登山・アウトド ア活動を行う 一般市民	25	11	3,500	教
静岡の自然と文化 ～東部・伊豆半島を中心に～ ※新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため11/29に延期し、 オンラインで実施	地域創造学環教授・小山真人 静岡大学名誉教授・白井嘉尚	6/6(土)13:00～16:15	ブラサヴェルデ	一般市民	80	33	無料	地
巡礼路から見る世界 ～サンティアゴ、イングランド、 四国遍路～ ※新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため11/7に延期し、 定員を100人に減らして実施	静岡大学名誉教授・今野喜和人 人文社会科学部准教授・大原志麻 立命館大学経済学部教授・田辺加恵 人文社会科学部教授・久木田直江 愛媛大学法文学部教授・胡 光	7/18(土)10:00～15:40	静岡県男女共 同参画センター 「あざれあ」	研究者、学生、 一般市民	130	24	無料	人
作って学ぶ、工学部の化学実 験 ※新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため中止	工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹 技術部技術職員・早川敏弘	7/23(木)または8/1 (土)いずれも14:00～ 17:00	浜松キャンパス	中学生・高校 生（保護者同 伴可）	20	—	無料	工

講座名	講師	日時	会場	対象	各日 定員	延べ 人数	受講料	主催
紅茶作りに挑戦しよう ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	農学部教授・稲垣茶洋 技術部技術専門員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	7/28(火)13:00～16:00	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	小学生とその 保護者、一般 市民	20	—	1,000	技
遺伝子の世界を見てみよう [全2回] ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	グリーン科学技術研究所准教授・ 道羅英夫 技術部技術職員・森内良太 グリーン科学技術研究所特任助教・ 兼崎友 技術部技術職員・柿添崇文	8/6(木)10:00～17:00、 8/7(金)10:00～15:00	静岡キャンパス	県内高校生	20	—	無料	グ
愛おしさから読み解くくだもの の多様性～園芸と民藝の融合～ [全3回] ※新型コロナウイルス感染症の 拡大防止のため定員変更して 実施(50人(第1,2回)・30人 (第3回)→15人)	農学部准教授・松本和浩	8/21,9/25,11/27(金) 14:00～16:30	藤枝市生涯学 習センター 道の駅下賀茂 温泉湯の花 健康文化交流 館「来・て・こ」	くだもの歴 史、品種、味 等の多様性ま たはそれらを 活かした地域 活性化に興味 がある消費者、 生産者	50 50 30	52	無料	農
体験!大学の化学実験[全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/22(土)・23(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生・高校 生(保護者の 同伴可能)、理 科教育の関係 者	30	17	無料	グ
第3回 邦人作品の調べ ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	教育学部講師・服部慶子 ほか	8/30(日)14:00～16:00	静岡市葵生涯 学習センター (アイセル21)	一般市民、生 徒、教員	100	—	無料	教
静岡大学キャンパスミュージアム 公開講座2020 [全5回] ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	理学部非常勤講師(ふじのくに地球環 境史ミュージアム教授)・岸本 年郎 理学部准教授・徳岡 徹 人文社会科学部准教授・山岡拓也 理学部准教授・石橋秀巳 技術部・宮澤俊義	10/10・17・24・31,11/7 (土)10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学 生、小中高 生(中学生以 下は保護者同 伴)	20	—	無料	キ
市民社会と法～家族とおカネに まつわる法について～[全5回]	地域法実務実践センター客員教授・ 上原裕之 地域法実務実践センター客員教授・ 宮下修一 地域法実務実践センター教授・朱 嘩	10/10,11/14,12/5、 1/9,2/13(土) 13:30～15:30	静岡市葵生涯 学習センター (アイセル21)	一般市民	30	98	無料	人
人工知能技術の発展と社会の 変化 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンデマンド配信 に変更して実施(参加人数は 配信期間中のアクセス合計)	情報学部准教授・山本泰生 情報学部准教授・李 皓 情報学部講師・藤岡伸明 情報学部准教授・狩野芳伸	11/7(土)10:35～12:00	浜松キャンパス	興味のある方 ならどなたでも	70	376	無料	情
和と洋の江戸時代の音楽を聴こ う～バロック音楽と地歌箏曲～ ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	教育学部准教授・長谷川 慎	3/13(土)14:00～ 16:00	静岡市葵生涯 学習センター (アイセル21)	一般市民、生 徒、教員	100	—	無料	教

【主催欄凡例】

(人) = 人文社会科学部 (教) = 教育学部 (情) = 情報学部 (工) = 工学部 (農) = 農学部 (地) = 地域創造教育センター
 (キ) = キャンパスミュージアム (グ) = グリーン科学技術研究所 (技) = 技術部

地域創造学環部門の下半期（10月～3月）事業報告

静岡大学地域創造学環は、2016年4月にスタートした、従来の学部の枠組みを超えた新しい全学学士課程横断型教育プログラムです。幅広い教養と高い専門知識を身につけながら、地域（フィールド）に飛び出し、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら地域課題の解決に取り組んでいます。2020年度後学期は、静岡県内14箇所において、16のテーマのもとで、フィールドワークを展開しました。

今年度は、前学期から引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で現地での活動が困難なフィールドもありましたが、オンラインを活用して地域のみなさまとの連携を模索しつつ活動を行ってまいりました（各フィールドのテーマは、下記の表を参照）。

なお、2019年度の活動をまとめたフィールドワーク報告書を地域創造学環のホームページに掲載しています。そのほかにも、各フィールドの教員や学生たちがフィールドワークの活動を随時紹介するコーナーもありますので、ぜひご覧ください。

静岡大学 地域創造学環ホームページ
<https://www.srd.shizuoka.ac.jp/>

【2020年度後学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	浜田・清水地区の情報発信とおもてなしによる交流・活動人口の増加
静岡市 庵原地区	庵原地区の地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化
静岡市 駒形・おまち	駒形通りと「おまち」のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館 (公益財団法人 浜松市文化振興財団)	若者の文芸離れを食い止めよう
浜松市 佐久間町	暮らし体験で交流の環づくり
掛川市 田園空間博物館 南遠州とうもんの里	子どもを呼び込むための環境づくり
御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクト—スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進—
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト
伊豆半島ジオパーク	①伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策 ②伊豆半島ジオパークの持続可能な開発と教育 (SDGs/ESD) の推進
県営団地	県営住宅団地における居場所づくりと地域福祉資源のネットワーク
学内地域連携拠点	静大発 地域と大学の連携を広めよう!

焼津市浜通り

「水産文化都市」を掲げる焼津市における漁業の原点の1つといえる浜通り地区を中心に我々はこれまでフィールドワークを行ってきましたが、コロナ禍の影響で今年度は現場で活動を行うことができずになりました。この度ようやく学生を連れて活動ができるに至りましたが、今回はやいづ案内人の会の皆さんと地域おこし協力隊の花田さんのご協力を得、浜通りについてご講義をいただき、その後現場で解説をいただきながら浜通りを歩きました。1年生は今回初めて参加しました。

浜通りの歴史、特に小泉八雲が好んで焼津・浜通りを訪れて滞在したこと、そして現在までの課題について学んだことを機に、2、3年生は改めて浜通りを学ぶ機会を、1年生は初めて学ぶ機会を得たことで、今後の活動につなげていきたいと考えております。



やいづ案内人の会の方からのご講義



やいづ案内人の会によるまち歩きをしながらの解説1



やいづ案内人の会によるまち歩きをしながらの解説2

とうもんの里

とうもんの里フィールドでは、11月に「田園空間博物館南遠州とうもんの里総合案内所」で開催された「キッズフェス」のイベントのひとつとして、静岡大学地域創造学環の学生たちが企画した「とうもんらんど」を実施しました。



「とうもんらんど」は、「親子で楽しむ!」「自然と遊ぼう!」のコンセプトのもとで、5つのミッションをクリアして、親子で「とうもんマップ」を完成させるイベントです。当日のイベントには17名の子どもたちが参加してくれました。

新型コロナウイルスの感染拡大により現地実習・学修ができない中でも、オンライン等を活用してフィールドの方々と連携しながら、企画の準備を進め、無事に本番を終えることができました。学生たちは、イベントの企画・準備、そして当日のイベント運営などを通して、多くの学びや気づきを得て、大きく成長を遂げたように思います。



地域人材育成・プロジェクト部門の下半期事業報告

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「静岡学事始め第二章～歴史と大地の“層”を紐解く～」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	9/5(土)	家康の駿府築城と天守台	本多隆成(静岡大学名誉教授)	75
2	10/31(土)	静岡県における過去数千年間の地震・津波の履歴	北村晃寿(静岡大学防災総合センター長)	65
3	11/21(土)	駿河湾海底堆積物からの贈り物、メタン!～基礎研究から社会実装まで～	木村浩之(静岡大学グリーン科学技術研究所・理学部教授)	54

■開催形態：Zoomによるオンライン講座

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「未来の暮らしをデザインする技術」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	11/24(火)	DNA情報で茶の新品種をデザインする	一家崇志(静岡大学農学部准教授)	39
2	12/15(火)	輸送論に基づく透析医療の発展と海水資源回収の実現	佐野吉彦(静岡大学工学部准教授)	36
3	1/19(火)	人工のオーロラを用いた自然界に存在しない機能材料の創製	脇谷尚樹(静岡大学工学部教授)	35

■開催形態：Zoomによるオンライン講座

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

主催事業

公開シンポジウム「地域課題に取り組むプラットフォームのあり方を考える」

地域の様々な課題を公募し、その解決支援を試みる静岡大学の「地域課題解決支援プロジェクト」も8年目を迎え、県内各地で活動を展開しています。各地で展開する様々な地域課題に対する取り組み、地域と大学の新たな連携・協働の事例に学びながら、地域課題について考え、取り組む「場」(プラットフォーム)のあり方を検討しました。

- ・日時：2020年12月24日(木) 13:00～16:30
- ・開催方法：Zoomミーティングによるオンライン開催
- ・プログラム：

[報告1]「伊豆半島における地域づくりの課題と可能性」報告：深澤準弥(松崎町企画観光課)、山口一実(南伊豆町地方創生室)、荒武優希(NPO法人ローカルデザインネットワーク)

[報告2]「フューチャーセンター×地域 各地の取り

組み事例から」報告：宇賀田栄次(静岡大学学生支援センター教授)、増田彩香(静岡大フューチャーセンター)
[報告3]「子どもの居場所・親の交流の場をつくる～しずおかキッズカフェの挑戦～」報告：小林タバサ(しずおかキッズカフェ代表)

[報告4]「子ども達の「できる!」を社会の中に～株式会社こども会議(仮)の挑戦～」報告：安池中也(株式会社こども会議(仮))

[パネルディスカッション]

パネリスト：報告者、課題提案者

コーディネーター：阿部耕也(静岡大学地域創造教育センター教授)

- ・参加費：無料
- ・対象：児童・生徒を含む一般市民、教職員、大学生
- ・参加者数：17人

共催事業

地域づくり人材研修事業 「公民館主事等研修会」

市町の行政、県内公民館主事、社会教育の各関係者、大学生を対象とした研修会を開催しました。公民館活動等を通じて生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供、大学とのネットワークづくりや指導者の資質の向上を図り、公民館の事業や活動を効果的に推進することを目的としています。

・日時：2020年11月6日（金）10:20～16:00

・会場：静岡市興津生涯学習交流館

・プログラム：

[基調講演]

「地域魅力創造サイクルという発想～シティプロモーションの拠点としての公民館～」河井孝仁（東海大学文化社会学部教授）

[事例報告]

①「令和元年度優良公民館等優良公民館表彰館（優秀賞受賞）の取組」佐藤隆夫（富士宮市柚野公民館）

②「地域とともに創る交流館事業」市川豊子（静岡市興津生涯学習交流館館長）

[グループワーク]

テーマ：「公民館と学校」ファシリテーター：増田彩香（静大フューチャーセンター）

・参加費：無料

・参加者数：33人

・主催：静岡大学地域創造教育センター、静岡県教育委員会

企画協力事業

静岡市・5大学連携事業 市民大学リレー講座「いまさら聞けない！SDGsって何？」

・日時：2020年9月25日（金）～11月27日（金）
18:30～20:00

・プログラム：

①9/25（金）「SDGs的に考え、SDGs的に世界をみる」
講師：湖中真哉（静岡県立大学国際関係学部教授）

②10/16（金）「建築のリノベーションとSDGs」
講師：土屋和男（常葉大学造形学部教授）

③10/30（金）「“水面下の生命”のために“水面上の生命”を守るとは何か？」
講師：李銀姫（東海大学海洋学部准教授）

④11/13（金）「今日のコミュニティ形成と人間関係の

特徴－SDG11「住み続けられるまちづくり」にむけて－」

講師：志田倫子（静岡英和学院大学人間社会学部教授）

⑤11/27（金）「2030年にどのような社会と暮らしを望むのか？－SDGsが問いかけるもの」

講師：竹之内裕文（静岡大学農学部・未来社会デザイン機構教授）

・会場：静岡市役所静岡庁舎3階食堂スペース
「茶木魚」

・受講者：延べ156人

・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉大学、静岡市

静岡県議会事務局との連携事業 県議会議員と学生による意見交換会

・日時：[第1回] 2020年12月8日（火）14:00～16:30

[第2回] 2021年2月26日（金）15:00～16:30

・会場：県庁本館4階403会議室

静岡大学地域創造学環の学生（阿部ゼミ2年生～4年生の5名）と県議会議員（2名）が参加し、意見交換会を開催しました。

最初に静岡県議会を傍聴したのち、「静岡県を若者が活躍しやすいまちにするために」をテーマとして意見交換を行いました。学生たちはフィールドワークで地域のイベント等に関わった経験から、「大人たちには、若者が提案することを実現させるためにどうすればよいか一緒に考えてほしい」などと意見を出しました。

議員からは「地域を良くしようとする思いは地域も政治も同じなので、意見を出し続けてほしい」「若者と政治は遠いもののように感じるかもしれないが、人と人のつながりがあって政策や予算がある。それを感じられれば政治を身近に感じるができるのではないか」とアドバイスがありました。



市民開放授業

市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。

2020年度後学期は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、受講者の皆様の健康・安全面を最優先に検討

した結果、止む無く中止しました。

2021年度前学期も引き続き学生の授業が対面授業と在宅授業の併用で実施されることとなり、教室の収容定員にも制限があるため、学外の方に参加していただくことが難しいと判断し中止することにしました。

未来社会デザイン機構の取り組みの紹介

静岡大学×和歌山大学研究フォーラム 半島地域における交流・協働のためのプラットフォームを考える

様々な場所で、地域固有の資源を活かし、地域が抱える課題の解決をはかる多様な活動が展開しています。望ましい地域・くらしのあり方に近づくために、取り組み事例に学び、情報共有や連携をはかりながら、地域づくりの拠点・プラットフォームを構築することが求められています。本フォーラムでは、伊豆半島と紀伊半島で展開する様々な地域課題に対する取り組み、地域と大学の新たな連携・協働の事例に学びながら、交流・協働のための拠点・プラットフォームのあり方を検討しました。

- ・日時：2021年2月11日（木）14:00～17:30
- ・開催方法：Zoomによるオンライン形式
- ・プログラム：

[報告1]「伊豆半島ジオパークを軸にした取り組

みと今後の展開」小山真人（静岡大学未来社会デザイン機構教授）

[報告2]「紀伊半島における高大地域連携による地域発展学習の取り組み」村田和子（和歌山大学紀伊半島価値共創基幹教授）

[報告3]「紀伊半島における鉄道防災教育を中心とした取り組みと今後の展開」西川一弘（和歌山大学紀伊半島価値共創基幹准教授）

[パネルディスカッション]

パネリスト：伊東千尋（和歌山大学学長）、石井潔（静岡大学学長）、丹沢哲郎（静岡大学理事・未来社会デザイン機構長）、上記報告者、深澤準弥（松崎町企画観光課）、山口一実（南伊豆町企画課地方創生室）、荒武優希（NPO法人ローカルデザインネットワーク）

コーディネーター：阿部耕也（静岡大学地域創造教育センター教授）

2020年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

阿部 耕也 地域創造教育センター長
江口 昌克 地域創造教育センター教授
山本 隆太 地域創造教育センター准教授
川崎 和也 地域創造教育センター特任助教
笠井 仁 人文社会科学部教授
渋江かさね 教育学部准教授
酒井三四郎 情報学部教授
三重野 哲 理学部教授
戸田三津夫 工学部准教授

檀本 正明 農学部准教授
水谷 洋一 地域創造学環教授
滑田 明暢 大学教育センター講師
坂下 裕一 学務部長（兼）地域連携推進課長

地域と大学 第42号

発行日——2021年3月29日

発行——静岡大学地域創造教育センター

編集——脇坂 友紀

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
（事務局別館2階）

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/

（事務局）学務部地域連携推進課 ☎ 054-238-4055